

CLOSE UP 大学



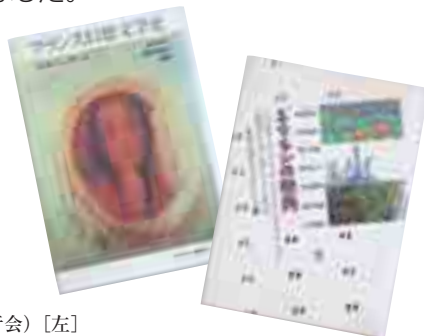
夢や目的を持って学び 自分の道を切り拓いて 行ってほしい

フランスへの留学経験を持ち、古美術やオペラを趣味とする柴田先生。学生には、「自分の生き方や将来は自分で考え選ばせる」ことをモットーとし、夢を広げるお手伝いをしているようです。そんな、ご自身とフランス文学との関わりを熱く語る柴田先生をクローズアップしました。

金城学院大学 文学部 言語文化学科

柴田道子 教授

- 広島大学文学研究科 フランス文学専攻修士課程修了
- 専門分野 / 19世紀フランス文学とフランス文化
- 研究課題 / 現代に通底する19世紀フランスの文化と社会との関わり（特に芸術の果たす役割について）
- 主な業績 / 【翻訳】フランス幻想文学史 共訳（国書刊行会）[左]
ギロチンの祭典 共訳（ユニテ）[右]



自分を表現する方法が フランス文学

子どものころから外国文学に興味があり、いろいろな国の本を読んでいくうちに、フランス文学がもっとも人間を自由にするという印象を受けました。大学もフランス文学科で、やっぱり人を自由にしてくれる学問がいいなと思ったのがフランス文学を追究しようと思ったきっかけです。フランス文学を経由して何かを訴えていきたい、もっと深く究めたいと考えるようになり、また、そこから得たことから自分の生き方をより豊かにしたいという想いが強まり、大学院をめざしました。自分を表現する一番の手立てがフランス文学だったのかもしれない。

大学院では19世紀のフランスロマン主義者であるジェラール・ド・ネルヴァルという作家を研究。修士課程を終え、博士課程の一年生のときにフランス文学科の助手になりました。

趣味は 古美術収集とオペラ

趣味は古美術の収集です。フランス19世紀の芸術論の授業では、なるべく本物の美術品を持っていき、学生に見せるようにしています。エミール・ガレの大きな壺を持っていったときは、実物を前にして驚く学生もいました。志野や織部といった日本の茶碗や、マイセンやフランスゼイブルの器を見せるときもあります。同じ時代の日本とフランスの器に共通して見られる特徴などを挙げて説明すると、学生は興味深く話を聞いてくれます。文化とは不思議なもので、国や地域が違って時代に通底するものがあるように感じます。

もう一つの趣味はオペラを鑑賞すること。オペラの魅力は、何といても歌手の声。それこそオペラを見るためだけにフランスへ出掛けることもありますよ。



ソプラノオペラ歌手であり友人でもあるカーチア・リッチャレツリさんとリッチャレツリさんは柴田先生のはからいにより金城学院大学設立50周年記念チャリティーコンサート(1999年)にご出演いただきました。

フランス文学とは 人間を自由にする象徴

私にとってフランス文学は人間を自由にする象徴だと感じます。影響を受けた人物にはシャルル・ボードレールという詩人がいて、彼は『悪の華』という詩集の中で「悪がすべて悪ではない、善がすべて善ではない、美がすべて美ではない、醜がすべて醜ではない」という意味を記しています。これは、ある人から見れば善であることが、別の人から見ると悪

であったり、またその逆であるというように、決まりきった考え方にとらわれずに、物事をさまざまな角度から見るのが、人を自由にするということの意味します。

こうした自由の思想は、フランス国民に根付いているよう

です。先日、新しい雇用制度をめぐって、フランスの学生たちがデモを起こし、国の法律の決定を覆したことは記憶に新しいことです。これは、国を挙げて自由を表現するといった自由の思想が、フランス人の根底にあるからではないかと思えます。

また、エコール・ド・パリなどフランスでの有名画家のほとんどは外国人です。日本の藤田嗣治をはじめ、イタリアのモディリアーニやロシアのスーチン・シャガールといった画

家たちはフランスで学び、大成していきました。外国人を受け入れ育てる懐の深さも、フランス全国民が持つ自由の思想に起因しているのではないかと思います。

生き方や将来は 自分で道を切り拓いてほしい

学生には、生き方や将来をなるべく自分で選ばせることを一番に心掛けています。最近、自分が何をやりたいのかわからないという学生が多いので、何でもいいので目的を持つことが大切だと教えています。何か目的を持って私のもとに相談に来た学生に対しては、具体的なレクチャーというより、方向性や考え方をアドバイスしています。自分で何か目的を見つけ、自分の道を切り拓いてくれるとうれしいですね。



柴田先生はこんな人



先生の話はとても楽しいです。フランスのことについていろいろ教えてください。授業でもよくフランスの話を盛り込んでいただけなので、いつも楽しく学ぶことができ、自然にもっとフランス語を学びたいという気持ちになります。また、先生は私たちの話をよく聞いてくださいます。パリコレのファッションモデルになりたい、フランスに住みたいといった夢を話すと、その話を真剣に聞いて、私たち一人ひとりにアドバイスをくださるので、夢も膨らみます。卒業して大人になっても、先生のもとに遊びに行きたい、心からそう思える先生です。

柴田先生を囲んで。
山本梨奈さん(左)と彦坂沙織さん(右)